

「父の姿に学んだ『挑戦』」

豊後高田市立桂陽小学校6年 山田 更紗

毎年、豊後高田市の秋の一大祭り「若宮八幡秋季大祭」が近づいてくると、私の心が落ち着かなくなる。「よっしゃあ！お祭りが始まるぞ！」というわくわくした気持ちと「大丈夫かなあ」という心配した気持ちが交差してくるのだ。

なぜ、心配した気持ちになるのかというと、私の父が弓道をしていることに理由がある。祭りの当日、桂橋の上から日本一大きなたいまつに矢を放って火をつけるのが父なのだ。

この祭りの様子は、豊後高田市のケーブルテレビで生中継され、火を放つ様子もくわしく映し出されている。

力強いたいこの音をバックに川を渡る美しいおみこしを照らす、長さ16メートル、重さ5トンのたいまつ。その雄大なたいまつに向けて、弓道連盟の人達が火を放っていく。一発でたいまつに矢が命中すれば、大きな歓声があがる。

そんな大きな役目をする父の出番を毎年、毎年、私と母は期待と不安の入り混じった気持ちでテレビの前に正座して見守っている。

しかし、残念ながら、父はこの大舞台に立つプレッシャーに負けてしまうのか、まだ一度も成功していない。

そんな父が、今年から部屋のかべに弓道の予定表をはり、ランニングやストレッチ、体調管理まで記入して、自分だけの弓道練習計画を立てて実行している。

その姿を見ていると、「また失敗するかもしれない」というそんな気持ちに負けない父の強さ、絶対に成功させるという強い意志を感じた。「挑戦する」ってかっこいいと思った。そして、「挑戦する」ためには、そこに向かう「勇気」も大切であることを父に教えてもらったように思う。

父の姿に押し出されるように、今、私は伝統文化である「仕舞教室」に通っている。

「仕舞」とは、「能」の一部で面などをつけずに舞っていく日本の素晴らしい文化である。今は「人間五十年」という織田信長が出陣するときの舞の練習にはげんでいる。

構えや動きなど覚えることがたくさんあって、時々、できるようになるのか不安になることもある。でも、父のように毎日、コツコツと努力を続けていけば、必ずできると信じている。

失敗をおそれずに秋の初舞台に向けて、自分にできる最大限の努力を続けていきたいと思う。

そんな私を家族や先生たちや友だちが応援してくれている。少しでも成長した私の姿を見せられるように、父から学んだ「挑戦」を続けていきたい。

今年の秋季大祭では、必ず、父の放つ矢が大きな炎を燃え上がらせることを信じて。